



## S コマンド

---

この章では、S で始まる Cisco NX-OS セキュリティ コマンドについて説明します。

# server

RADIUS サーバ グループまたは TACACS+ サーバ グループにサーバを追加するには、**server** コマンドを使用します。サーバ グループからサーバを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**server** {*ipv4-address* | *ipv6-address* | *hostname*}

**no server** {*ipv4-address* | *ipv6-address* | *hostname*}

## 構文の説明

<i>ipv4-address</i>	A.B.C.D 形式のサーバの IPv4 アドレス
<i>ipv6-address</i>	X:X:X::X 形式のサーバの IPv6 アドレス
<i>hostname</i>	サーバ名。名前は、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、最大文字数は 256 です。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

RADIUS サーバ グループ コンフィギュレーション モード  
TACACS+ サーバ グループ コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

サーバ グループには、最大 64 のサーバを設定できます。

RADIUS サーバ グループ コンフィギュレーション モードを開始するには、**aaa group server radius** コマンドを使用します。TACACS+ サーバ グループ コンフィギュレーション モードを開始するには、**aaa group server tacacs+** コマンドを使用します。

サーバを検索できなかった場合、**radius-server host** コマンドまたは **tacacs-server host** コマンドを使用してサーバを設定します。



(注)

TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。

## 例

次に、RADIUS サーバ グループにサーバを追加する例を示します。

```
switch(config)# aaa group server radius RadServer
switch(config-radius)# server 192.168.1.1
```

次に、RADIUS サーバ グループからサーバを削除する例を示します。

```
switch(config)# aaa group server radius RadServer
switch(config-radius)# no server 192.168.1.1
```

次に、TACACS+ サーバ グループにサーバを追加する例を示します。

```
switch(config)# feature tacacs+
```

```
switch(config)# aaa group server tacacs+ TacServer
switch(config-tacacs+)# server 192.168.2.2
```

次に、TACACS+ サーバ グループからサーバを削除する例を示します。

```
switch(config)# feature tacacs+
switch(config)# aaa group server tacacs+ TacServer
switch(config-tacacs+)# no server 192.168.2.2
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>aaa group server</b>	AAA サーバ グループを設定します。
<b>feature tacacs+</b>	TACACS+ をイネーブルにします。
<b>radius-server host</b>	RADIUS サーバを設定します。
<b>show radius-server groups</b>	RADIUS サーバ グループ情報を表示します。
<b>show tacacs-server groups</b>	TACACS+ サーバ グループ情報を表示します。
<b>tacacs-server host</b>	TACACS+ サーバを設定します。

# ssh

IPv4 を使用してセキュア シェル (SSH) セッションを作成するには、**ssh** コマンドを使用します。

```
ssh [username@]{ipv4-address | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}]
```

## 構文の説明

<i>username</i>	(任意) SSH セッションのユーザ名。ユーザ名は、大文字と小文字の区別がなく、最大文字数は 64 です。
<i>ipv4-address</i>	リモート ホストの IPv4 アドレスです。
<i>hostname</i>	リモート ホストのホスト名です。ホスト名は、大文字と小文字が区別され、最大文字数は 64 です。
<b>vrf</b> <i>vrf-name</i>	(任意) SSH セッションで使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) 名を指定します。この名前には最大 32 文字までの英数字を指定できます。
<b>default</b>	デフォルト VRF を指定します。
<b>management</b>	管理 VRF を指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルト VRF

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

スイッチは SSH バージョン 2 をサポートしています。

## 例

次に、IPv4 を使用して SSH セッションを開始する例を示します。

```
switch# ssh 192.168.1.1 vrf management
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear ssh session</b>	SSH セッションを消去します。
<b>ssh server enable</b>	SSH サーバをイネーブルにします。
<b>ssh6</b>	IPv6 アドレスを使用して SSH セッションを開始します。

# ssh6

IPv6 を使用してセキュア シェル (SSH) セッションを作成するには、**ssh6** コマンドを使用します。

```
ssh6 [username@]{ipv6-address | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}]
```

## 構文の説明

<i>username</i>	(任意) SSH セッションのユーザ名。ユーザ名は、大文字と小文字の区別がなく、最大文字数は 64 です。
<i>ipv6-address</i>	リモート ホストの IPv6 アドレスです。
<i>hostname</i>	リモート ホストのホスト名です。ホスト名は、大文字と小文字が区別され、最大文字数は 64 です。
<b>vrf</b> <i>vrf-name</i>	(任意) SSH IPv6 セッションで使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) 名を指定します。この名前には最大 32 文字までの英数字を指定できます。
<b>default</b>	デフォルト VRF を指定します。
<b>management</b>	管理 VRF を指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルト VRF

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

スイッチは SSH バージョン 2 をサポートしています。

## 例

次に、IPv6 を使用して SSH セッションを開始する例を示します。

```
switch# ssh6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear ssh session</b>	SSH セッションを消去します。
<b>ssh</b>	IPv4 アドレスを使用して SSH セッションを開始します。
<b>ssh server enable</b>	SSH サーバをイネーブルにします。

# ssh key

セキュア シェル (SSH) サーバ キーを作成するには、**ssh key** コマンドを使用します。SSH サーバ キーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ssh key {dsa [force] | rsa [length [force]]}
```

```
no ssh key [dsa | rsa]
```

## 構文の説明

<b>dsa</b>	Digital System Algorithm (DSA) SSH サーバ キーを指定します。
<b>force</b>	(任意) 以前のイベントが存在する場合に、DSA SSH キー イベントを強制的に生成します。
<b>rsa</b>	Rivest, Shamir, and Adelman (RSA) 公開キー暗号法の SSH サーバ キーを指定します。
<b>length</b>	(任意) SSH サーバ キーを作成するときに使用するビット数。有効な範囲は 768 ~ 2048 です。

## コマンドデフォルト

1024 ビットの長さ

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは SSH バージョン 2 をサポートしています。

SSH サーバ キーを削除または交換する場合、**no ssh server enable** コマンドを使用してまず SSH サーバをディセーブルにする必要があります。

## 例

次に、デフォルトのキーの長さで RSA を使用して SSH サーバ キーを作成する例を示します。

```
switch(config)# ssh key rsa
```

次に、指定したキーの長さで RSA を使用して SSH サーバ キーを作成する例を示します。

```
switch(config)# ssh key rsa 768
```

次に、**force** オプションで DSA を使用して SSH サーバ キーを交換する例を示します。

```
switch(config)# no ssh server enable
switch(config)# ssh key dsa force
switch(config)# ssh server enable
```

次に、DSA SSH サーバ キーを削除する例を示します。

```
switch(config)# no ssh server enable
switch(config)# no ssh key dsa
```

```
switch(config)# ssh server enable
```

次に、すべての SSH サーバ キーを削除する例を示します。

```
switch(config)# no ssh server enable
switch(config)# no ssh key
switch(config)# ssh server enable
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show ssh key</code>	SSH サーバ キーの情報を表示します。
<code>ssh server enable</code>	SSH サーバをイネーブルにします。

# ssh server enable

セキュア シェル (SSH) サーバをイネーブルにするには、**ssh server enable** コマンドを使用します。SSH サーバをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ssh server enable**

**no ssh server enable**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

イネーブル

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

スイッチは SSH バージョン 2 をサポートしています。

## 例

次に、SSH サーバをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# ssh server enable
```

次に、SSH サーバをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no ssh server enable
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ssh server</b>	SSH サーバ キーの情報を表示します。

# storm-control level

トラフィック ストーム制御の抑制レベルを設定するには、**storm-control level** コマンドを使用します。抑制モードをオフにしたり、デフォルトの設定に戻したりするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
storm-control {broadcast | multicast | unicast} level percentage[.fraction]
```

```
no storm-control {broadcast | multicast | unicast} level
```

## 構文の説明

<b>broadcast</b>	ブロードキャストトラフィックを指定します。
<b>multicast</b>	マルチキャストトラフィックを指定します。
<b>unicast</b>	ユニキャストトラフィックを指定します。
<b>level percentage</b>	抑制レベルの割合を指定します。有効な範囲は 0 ~ 100% です。
<b>fraction</b>	(任意) 抑制レベルの端数。有効な範囲は 0 ~ 99 です。

## コマンドデフォルト

すべてのパケットが渡されます。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**storm-control level** コマンドを入力して、インターフェイス上のトラフィック ストーム制御をイネーブルにし、トラフィック ストーム制御レベルを設定し、インターフェイスでイネーブルにされているすべてのトラフィック ストーム制御モードにトラフィック ストーム制御レベルを適用します。

端数の抑制レベルを入力する場合、ピリオド (.) が必要になります。

抑制レベルは、合計帯域幅の割合です。100% のしきい値は、トラフィックに制限がないことを意味します。0 または 0.0 (端数) % のしきい値は、指定されたすべてのトラフィックがポートでブロックされることを意味します。

廃棄カウントを表示するには、**show interfaces counters storm-control** コマンドを使用します。

指定したトラフィック タイプの抑制をオフにするには、次のいずれかの方式を使用します。

- 指定したトラフィック タイプのレベルを 100% に設定する。
- このコマンドの **no** 形式を使用する。

## 例

次に、ブロードキャストトラフィックの抑制をイネーブルにし、抑制しきい値レベルを設定する例を示します。

```
switch(config-if)# storm-control broadcast level 30
```

次に、マルチキャスト トラフィックの抑制モードをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config-if)# no storm-control multicast level
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show interface</b>	インターフェイスのストーム制御抑制カウンタを表示します。
<b>show running-config</b>	インターフェイスの設定を表示します。